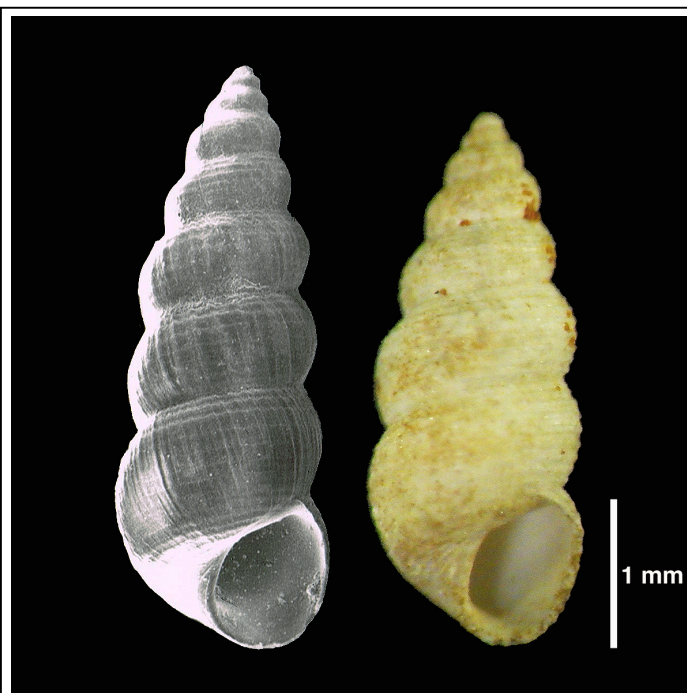


サナギモツボ *Finella pupoides* A. Adams

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も現在までの調査の結果、アマモ場周辺で、死殻は少ないながらも採集されたが、生貝は採集できなかった(木村, 1996 など)。近年の三河湾の島嶼域潮間帯周辺の詳細な調査により、転石地と隣接した良好なアマモ場周辺から死後間もない死殻が稀に採集されたが、生貝は依然として確認されていない(早瀬・木村, 2020)。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



左: 南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 2-4 m), 1994 年 10 月 10 日,
右: 西尾市佐久島, 2017 年 6 月 25 日, 木村昭一採集

【形態】

殻長約 4 mm の微小で、細長い紡錘形の殻を持つ。螺層はよく膨らみ、縫合は深い。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では近年生貝が採集されていない。

【世界及び国内の分布】

日本、インド、西太平洋。国内では三陸海岸・佐渡島～南西諸島まで分布する(福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように県内では生貝を採集できない。死殻さえ稀なので、危機的な生息状況といえる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

早瀬善正・木村昭一, 2020. 佐久島(三河湾)の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.

木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

福田 宏, 2012. サナギモツボ, p. 28. in: 日本ベントス学会(編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

(木村昭一)